

Profile

大阪府出身。2009年 大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士(保健学)。立命館大学理工学部助教、近畿大学理工学部講師を経て、17年より現職。センシングウェアで取得した生体情報を音や映像に変換することで各個人の音や映像を創造し、それらを媒介としたコミュニティーの構築を目指す。



多分野連携は、 まず相手を理解することから

立命館大学 理工学部
准教授

岡田 志麻
Shima Okada



Q 研究テーマを一言でいうと?

A 生体情報を音や映像に変換して、
運動への誘導や継続のきっかけに活用。

心拍数や発汗、呼吸などの生体情報を芸術の観点から音や映像に変換するシステムを開発しています。私たちにとって生体情報の数値データは、よくわからないものです。そこで、情報を可視化すると同時に楽しい要素を加えられれば、もっと活用できるのではないかと考え、生体情報を音や映像に変換することを思いつきました。生体のさまざまなリズムに音を割り当てて演奏したり、体の動きによって音を奏でたりすることで、例えば、運動が苦手な人や継続できない人が、興味を持って楽しく運動を始めたり、知らないうちに続けられたりするきっかけになると思います。

将来は、計測で得られた生体情報を可視化して個人に伝えることで自身の運動や動作の問題点を認識させ、改善へ導くことにも応用できればと考えています。

Q 研究者として大切にしていることは?

A 現場の声に耳を傾け、本当の問題を知ること。

物理が好きで、医療ロボットなどの開発に携わりたいと思い、理工学部のロボティクス学科に進みました。大学卒業後、医学系の先生と一緒に研究を進めていたのですが工学技術がいくら優れていても、臨床現場を知らないと意味がないと言われ、外来に立ちました。実際にご家族の声を聞き、思い描いた問題点ではなく、臨床現場が必要としている本当の問題点を知ったことによって、工学の技術を生かす方向性が見えてきたように思います。この時初めて、他の分野の専門家と研究を続けていくには、その分野のことをしっかり知ることが大切だということを学びました。

今も医学をはじめとする他の分野の専門家との共同研究を続けています。しかし、異なる分野の研究者同士の相互理解は難しいものです。相手の専門分野を一から勉強すると同時に自分の専門分野を理解してもらうことが大切です。これは学生にも常々伝えています。

Q プライベートについて教えてください。

A 子供とともに趣味を楽しんでいます。

休日は隠れてゲームをしているか、息子と遊びに行くことが多いですね。息子は鉄道や飛行機が好きなので、愛知県のリニア・鉄道館や埼玉県鉄道博物館にも連れていきました。飛行機のメカニズムなど物理の話もしますが、おおよその原理を教えるだけで正解は教えないのがポリシーです。幼少期の経験は大人になって何をしたいか悩んだ時に、きっかけをくれると思います。私自身、研究者だった祖父に憧れ、幼少期に研究者になろうと決めました。

研究者は、好きなことを仕事にできる素晴らしい職業だと思います。何か新しいものを作りたい、何かを変えてみたいという思いを持っている方は、研究者を目指してはいかがでしょうか。

